

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立旗台小学校

(1) 定着状況の概要

品川区学力調査では、国語の基礎的・基本的な知識・技能は概ね定着しており、漢字の読み書きや語句、言語事項に関する問題では目標値を上回る学年が多く見られた。また、「基礎」「活用」のカテゴリーも概ね良好な結果であった。

一方で、カテゴリー別正答率を見ると、「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」「記述式問題」に課題が見られた。文章や資料から必要な情報を整理し、複数の情報を関連付けながら考えをまとめたり、根拠を明確にして自分の考えを書いたりする力が十分とは言えない。また、「読むこと」においても、叙述を基に内容を解釈し、自分の考えを説明する設問で正答率が低い傾向が見られた。

(2) 具体的な課題

知識・技能

- ・漢字や語句、文法など、基礎的な言語事項の定着に学年差が見られる。
- ・語句相互の関係や文の構成、情報と情報との関係を理解する力に課題が見られる。
- ・文章や資料から必要な情報を取り出し、整理・比較する「情報の扱い方に関する事項」の正答率が低い。

思考力・判断力・表現力

【話すこと・聞くこと】

- ・目的や意図を明確にして、自分の考えを相手に分かりやすく伝えること。
- ・話し合いの中で考えを整理したり、相手の意見を踏まえて考えを深めたりすること。

【読むこと】

- ・叙述を根拠として内容を読み取り、要旨や人物の心情、筆者の考えを説明すること。
- ・複数の情報を関連付けながら読み取ること。

【書くこと】

- ・目的や条件に応じて文章を構成し、根拠を明確にして自分の考えを書くこと。
- ・記述式問題において、必要な情報を整理し、論理的に表現する力。

(3) 課題の原因として考えられること

- ・文章全体を捉え、必要な情報を整理・比較しながら読む経験が十分ではない。
- ・根拠を明確にして考えを書く活動や、条件に応じて文章を構成する学習の積み重ねが不足している。
- ・学習した語句や表現を、実際の言語活動の中で活用する機会が十分ではない。
- ・読むことと書くことを関連付けた学習が十分に行われておらず、読み取った内容を自分の言葉で表現する力の育成に課題がある。

(4) 課題解決のための方策

- ・叙述を根拠として考える学習を充実させ、本文に立ち返りながら考えを形成する授業を展開する。
- ・要約や条件作文、意見文などを書く活動を計画的に位置付け、目的や相手を意識して表現する力を育成する。
- ・文章と資料を関連付けて読み取る活動や、情報を比較・整理する活動を取り入れ、情報活用能力を育成する。
- ・単元を通して「読むこと」と「書くこと」を関連付けた言語活動を充実させ、自分の考えについて根拠をもって表現する力を育成する。
- ・振り返りや交流活動を充実させ、多様な考えに触れながら表現を見直し、学びを深める機会を設ける。

(1) 定着状況の概要

全学年で目標値を上回った。特に第6学年に関しては、すべての領域で目標値を上回り、全体としても目標値を大きく上回ることができた。

領域別に見ると、どの学年でも資料を読み取る問題や、そこから考えたり判断したりする問題の正答率が低い。各単元において、資料を正確に読み取り、それを活用することができるように指導していく。

また、解答形式別に見ると、記述式の問題を苦手とする傾向があり、無回答の割合も高くなっている。自分の考えを文章で表現する活動をさらに取り入れていく必要がある。

(2) 具体的な課題

4年生

市の様子

- ・四方位や公共施設について理解する。

買い物調べ

- ・買い物調べの方法について考える。

安全なくらしー火事

- ・消防で使用される乗り物について、資料をもとに考える。
- ・消防士の仕事について、資料をもとに判断する。

市の様子の移り変わり

- ・市の変化について、資料をもとに考え、表現する。

5年生

都道府県の様子

- ・都道府県の位置と名称を理解する。
- ・人口と面積について、資料を読み取る。

くらしをささえる水

- ・節水のための工夫について考える。

ごみの処理と利用

- ・ごみの出し方のルールについて、資料を読み取る。

先人の働き

- ・資料をもとに考え、表現する。

特色ある地域の様子

- ・伝統的な技術を生かした産業について、資料を読み取る。

6年生

日本の水産業

- ・日本の主な漁港と水揚げ量についての資料を読み取る。

日本の工業

- ・輸送手段の特徴について考える。

(3) 課題の原因として考えられること

- ・資料を読み取って答える問題での誤答が多い。目的や視点を意識して資料を読み取る力が不十分である。
- ・グラフや年表を正しく読み取ることや資料を基に考えることが定着していない。
- ・自分の考えを文章で表現する力が十分には身に付いていない。



(4) 課題解決のための方策

- ・授業で資料を活用する際は、「①表題、②軸の内容と単位、③出典と年数」の確認を習慣化させ、読み取る内容を焦点化して指導することで、資料を読み取る力の向上を図る。
- ・グラフの読み取りについては、算数の学習の中でも、グラフの種類とその特徴について意図的に取り上げ、定着を図る。
- ・資料から読み取ったことや自分の経験から考えたことを文章で表現する活動を多く取り入れる。

算 数

(1) 定着状況の概要

第2学年から第6学年まで、目標値と同程度か目標値を上回っている学年が多い。第4学年、第6学年は目標値を大きく上回ることができていた。

昨年度に課題であった数と計算の領域が目標値を上回っており、定着が見られた。一方で図形の領域においては、目標を下回る学年や、上回っているものの他の領域と比較するとポイントが高くない学年があり、全体的に定着度が低いことが分かる。全体として基礎的な内容の定着が見られるが、4年生以上になると活用的な内容が目標値より低くなっている。学年が上がるごとに既習事項を生かして活用・応用する問題に多く取り組む必要がある。

(2) 具体的な課題

共通する課題としては、

- ・図形の概念の理解が浅い。作図方法など概念を理解して問題を解く力が弱い。
- ・活用・応用の場面でのつまずきが見られる。文章問題や複合的な問題が弱い。
- ・言葉で説明する力、筋道立てて考える力が不足している。

各学年の傾向としては、

- ・2年：位取り記数法の理解や文章問題を読み取り、正しく立式することにつまずきがある。
- ・3年：繰り上がりや繰り下がりの計算やかけ算九九の定着につまずきがある。
- ・4年：問題を解くことはできても、問題の解き方を説明する力が弱い。
- ・5年：分数や小数の計算方法の理解につまずきがある。
- ・6年：グラフから必要な情報を読み取る力やそれらを活用した割合の理解につまずきがある。

(3) 課題の原因として考えられること

- ・図形やグラフを作業的・体験的に扱う学習経験が不足している。
- ・文章題を読み取り、必要な情報を整理する読解力が不足している。
- ・文章問題や複合的な問題への取り組みが不足している。
- ・問題を解く際に、なぜそのように解くのか説明的活動が不足している。



(4) 課題解決のための方策

- ・図形・グラフについては具体物やICTを活用した体験的な学習を取り入れる。
- ・面積や図形の作図問題の復習を計画的に取り入れ、確実な定着を図る。
- ・授業の最初に、計算練習の時間を設定し、計算力の定着を図る。
- ・ペアやグループでの話し合い活動を通して、立式の根拠や考え方を順序立てて説明する機会を増やす。
- ・単元間のつながりを意識して、新しい内容に入る前に既習事項の復習に取り組む。

(1) 定着状況の概要

すべての学年において理科の学力調査では、活用と記述の問題に対する正答率が低かった。各学年の内容については以下のとおりである。

第6学年では「植物の発芽と成長」や「流れる水のはたらき」に関する知識・技能に課題が見られ、観察結果をもとに考察する問題の正答率が特に低い。

第5学年では「動物のからだのつくりと運動」や「天気のようにすと気温」に関する内容の正答率が低く、知識を活用する場面でのつまずきが多い。

第4学年では「太陽と地面のようす」での太陽と影の位置関係についての理解や、「光のせいしつ」での学習内容と身の回りの現象をつなげることなどに課題が見られる。

今後は、日常生活や体験と理科学習を結び付けること、学びを言語化して自分の言葉で説明する力を伸ばすことが必要である。

(2) 具体的な課題

・4年

身近な自然の観察

野外観察のしかたや虫眼鏡の使い方を身に付ける。

植物の育ち方

ハウセンカの育つ順序について理解する。

太陽と地面のようす

太陽と影の位置関係や影の性質について理解する。

じしゃくのせいしつ

磁石に着けた鉄は磁石になることを理解する。

・5年生

動物のからだのつくりと運動

腕の曲げ伸ばしをしたときの筋肉の様子や骨のはたらきについて理解する。

天気のようにすと気温

百葉箱や気温の測り方を身に付ける。

物の体積と温度

水をあたためたときと冷やしたときの体積の変わり方について理解する。

水のすがた

水を加熱したときの温度の変化について理解する。

・6年生

植物の発芽と成長

発芽に必要なものを調べるために実験計画を立てる。

流れる水のはたらき

堆積のはたらきについて理解する。

顕微鏡の使い方

顕微鏡のピントの合わせ方や倍率を上げる方法を身に付ける。

ふりこのきまり

ふりこの周期の平均を求めるための式が分かる。

(3) 課題の原因として考えられること

- ・実験を通してどのような仮説を検証しているか理解できていない。
- ・実験結果から分かることと、既にもっている知識が混在していて、整理できていない。
- ・分かったこと、考えたことなどを言語化する力が弱い。
- ・実験の結果だけを覚えていて、身の回りの現象との結び付きができていない。
- ・「予想→実験→考察」の流れがつながっておらず、論理的に説明する力が身に付いていない。



(4) 課題解決のための方策

- ・何を検証する実験なのかを明確にして、予想を立てたうえで実験を行う。
- ・「問題→予想→計画→観察・実験→結果→考察→結論」の流れを繰り返した授業展開を行う。
- ・タブレットや模型、図表を用いて現象を可視化し、理解を深める。
- ・観察・実験結果を自分の言葉で言語化する活動を重視する。
- ・科学の楽しさや面白さを実感できるような、体験的な学びを取り入れる。

(1) 定着状況の概要

ほとんど全ての項目が目標値を超えており、目標値より6ポイント上回っている。また、昨年度より4ポイント正答率が上がる結果となった。

授業の中で、繰り返しアルファベットの聞き取り、書き取りのテストを行っていることで、定着していきいている。また、チャンツや物語の聞き取りについても繰り返し行っていることで、英語を聞き取って意味を理解する力がついてきている。

一方で、自分が使う英単語に偏りがあり、基本的な単語を覚えられていなかったり、語群から選んで、例文を基に正しく英文を作ったりする力が乏しい。授業の中で、自分のことについてはスピーチしているものの、第三者のことを発表する機会はないため、主語を三人称にして文章を作る力が弱い。

(2) 具体的な課題

聞く力

- ・曜日や月名、日課など身近で簡単な単語を聞き、その意味を理解する。
- ・曜日や月名、日課などの単語が使われている英文を聞き、聞き取る。

英作文

- ・例文を参考にしながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて書く。

(3) 課題の原因と考えられること

聞く力

- ・授業で使う英単語が限られていて、なかなか定着につながらない。

英作文

- ・難しい文をタブレットの翻訳に頼って作ろうとする傾向がある。
- ・書く活動の時間が十分に確保できておらず、英作文の作成に慣れていない。

(4) 課題解決のための方策

聞く力

- ・歌やチャンツを利用して、繰り返し練習をする。
- ・自分のスピーチ原稿作りに既習の単語を取り入れられるようにする。

英作文

- ・書く活動では、例文を参考にしながら、スピーチの原稿作りを行ったり、自分で英文が書けたりすることを目標に取り組めるようにする。
- ・Picture Dictionary を活用し、簡単な文を作る習慣を身に付ける。